

平成30年度 公益社団法人埼玉県精神保健福祉協会長表彰 被表彰者

【個人】 11名

＜医療機関職員等永年勤続表彰＞

氏名	所属		推薦団体	従事年数	年齢	推薦理由
そのめ 染野 りえ 理絵	財団法人 西熊谷病院  (日本精神科看護協会埼玉支部)	看護長 看護部教育課担当 係長	日本精神科看護協会埼玉県支部	24年	43歳	平成5年入職。平成14年に日本精神科看護協会に入会。積極的な研修参加への呼びかけや、講師派遣事業へ協力。平成24年より副業務委員長として主催研修会開催運営に携わり、埼玉県内の精神科看護の質向上に寄与している。さらに、平成14年から自施設の看護部教育担当主任、係長をの歴任し、平成27年、日本精神科医学会の認定看護師認定を受け、自施設の看護の質向上、後輩育成に努めている。
あおき 青木 たかし 貴志	医療法人社団 松風会 松風荘病院	看護課 主任	松風荘病院	21年	43歳	平成8年入職。平成28年より病棟主任の要職を歴任し、責任ある職務に就いている。患者様に対する献身的な勤務振りに加え、病棟における全般的な看護業務の把握・運営、部下の指導・相談、職場環境の改善・向上にも注力し、顕著な功績があったと認められる。
えんどう 遠藤 あきこ 明子	医療法人社団 松風会 松風荘病院	看護課 主任	松風荘病院	20年	57歳	平成9年入職。平成17年4月より病棟主任の要職を歴任し、責任ある職務に就いている。患者様に対する献身的な勤務振りに加え、病棟内の質の高い看護サービスの継続的な提供・評価・改善を図り、部下の指導にも注力しており、顕著な功績があったと認められる。
かんばやし 神林 まさこ 正子	医療法人社団 松風会 松風荘病院	事務課 ソーシャルワーカー	松風荘病院	20年	60歳	平成9年入職。事務課に配属され、定年後も嘱託正社員として勤務している。患者さんやその家族が抱える経済的・心理的・社会的問題の解決、調整を援助し、社会復帰を支援してきた。また、後輩の指導・育成にも熱心で、他の職員の模範となりよき相談者となっており、永年にわたる功績があったと認められる。

＜地域精神保健福祉推進者功労表彰＞

氏名	所属		推薦団体	従事年数	年齢	推薦理由
やしま 八島 ようこ 庸子	熊谷地区みのり会	理事	埼玉県精神障害者家族会連合会	19年	80歳	平成10年入会。平成23・24年と副会長を勤め、会長を補佐し、会長不在の折には会長代理として活躍された。ご子息の遺産を法人設立のために寄付され、小規模作業所であった熊谷たんぼぼを社会福祉法人とされた。その後、理事兼職員として関わり、グループホームの開所にも尽力された。平成25年にたんぼぼを退職され、現在は理事長として法人の運営にあたっている。また、現在も理事として会員への助言や家族会以外の方の電話相談にも乗っておられる。利用者からの相談にも熱心に耳を傾け、信頼され慕われる存在となっている。
くぼた 久保田 けい 京 こ 子	狭山市精神障害者家族会(狭山こぶしの会)	理事	埼玉県精神障害者家族会連合会	15年	83歳	平成7年、息子の通所施設のある入間市の家族会に入会、ボランティアとして精神障害者のための活動に尽力された。その後、居住地の狭山市の家族会に属して平成14年から10年間会長を務められた。研修会、相談活動、レクリエーション活動等たくさんの取り組みにリーダーとして活動された。また、社会福祉法人設立のために指導的な立場で多くの会員の先頭に立ち、平成17年設立時からこぶし福祉会の事業に協力。現在も理事として狭山こぶしの会活動に積極的に協力している。埼家連活動では理事として活動の意義を会員に惜しまず伝える努力をされ、電話相談員としても研修に励まれ、積極的に取り組んでいる。

つだ 津田 えいこ 榮子	公益社団法人 埼玉県断酒新生 会 いずみ会	元会長		32 年	74 歳	昭和60年入会。平成20・21年度の2ヶ年度にわたり『いずみ会』会長の職を勤めた。平成20年から平成24年の4ヶ年度『埼玉北部家族会』会長を勤めた。平成22年から現在に至るまで『上尾市健康増進委員』を務め、酒害相談、酒害啓発に努めている。また、入会以降長年にわたり地域例会への出席、レクリエーションを通じた親睦行事や講演会・市民公開セミナー等に積極的に参加するとともに、新規加入者・加入希望者への紹介・説明をなどを通じ、定着への助言に努めてきた。さらに、本人の桶川・上尾断酒会会計としての任務遂行に家族としても努力してきた。以上のとおり、被推薦者の功績は極めて顕著なものである。
たかの 高野 りつこ 律子	公益社団法人 埼玉県断酒新生 会 いずみ会	元会長	埼玉県断 酒新生会	38 年	89 歳	昭和54年入会。平成2・3年度の2ヶ年度にわたり『いずみ会』会長の職を勤めた。入会以降長年にわたり地域例会への出席、レクリエーションを通じた親睦行事や講演会・市民公開セミナー等に積極的に参加するとともに、新規加入者・加入希望者等への紹介・説明などを通じ、定着への助言に努めてきた。また、本人の朝霞断酒会会長、当会理事としての任務遂行に家族としても努力してきており、被推薦者の功績は極めて顕著なものである。
たかはし 高橋 あきら 晶	公益社団法人 日本てんかん協 会 埼玉県支部	事務局長	日本てん かん協会 埼玉県 支部	20 年	44 歳	てんかん協会入会直後から会の世話人となり、事務局次長、事務局長などの要職を勤める。事務局長として、支部の組織化と活動の活性化に貢献した。また、全国組織の本部や他支部との連携強化に尽力し、本部主催の活動者会議・関東ブロック会議・全国大会などさまざまな集いに積極的に参加。最新の知識を吸収し、研鑽を重ね、その成果を支部活動に反映させてきた。患者自身として、当事者活動の中心的な存在として、長期間にわたって会の活動に貢献されており、表彰候補者として推薦することになった。
ながまつ 永松 くにこ 邦子	ひきこもり当事 者OBの集い 「有閑倶楽部」 ・ ひきこもり家族 の集い 「ひだまりの 会」	サポー ター ・ オブザー バー	狭山 保健所	24 年	73 歳	平成5年、不登校児童を支援する「バクの会」スタッフとして支援活動を開始。平成15年から実施された「狭山保健所青年期ひきこもり当事者の集い」では、グループアドバイザーとして従事。参加者が事業を卒業してからも相談に対応し、社会参加が継続できる支援を続けてきた。平成26年に事業が終了してからも卒業生が自主的に集える場を共に探し、現在はサポーターとして支援している。また、平成22年から、ひきこもり家族の集い「ひだまりの会」にオブザーバーとして参加。地域での生活者として当事者を理解し寄り添う姿勢で支援を続けている。支援策も手探りで社会資源もない時代から、当事者・家族、行政と連携しながらより良い支援策を模索し支援に携わった功績は大きい。

### <精神保健福祉協会活動功労表彰>

氏名	所属		従事 年数	年齢	推薦理由
さいとう 斉藤 まさみ 正美	埼玉県立精神保健福祉 センター 非常勤職員	事務局	28 年	62 歳	埼玉県職員（平成元年4月～平成28年3月）として長年にわたり協会の発展に貢献している。埼玉県精神保健福祉センター職員と兼務で協会事務局長を務め（平成19～22年度、平成26～27年度）、協会の各事業の実施及び運営を献身的に支えた。その功績はきわめて顕著なものである。

## 【団体】 11 団体

### <地域精神保健福祉推進団体功労表彰>

団体	代表者	所在地	推薦団体	推薦理由等
ケアサービス ゆず	佐藤 豪	毛呂山町	日本精神科看護協会埼玉県支部	平成19年開設。地域の障害者に対し営利追求に留まらない活動を展開している団体。地域のマラソン出場のための練習援助、近隣の老人施設への慰問等多岐にわたる活動をしている。また、移動支援として、映画鑑賞、動物園、グラウンドゴルフなど利用者の行動範囲を拡大したり、働く場として、利用者との契約を結び清掃を委託。地域活動への積極的な参加やきめ細やかなサービス提供を通じ、地域保健福祉活動への貢献は大きいものである。
障害者生活支援センター たけさと	川瀬 典夫	春日部市	春日部保健所	平成15年設立した。「精神障害者地域生活支援センター」として運営を開始した。当該センターの設立にあたっては地域からの強い反対運動があった歴史がある。それが、当該センターが献身的な普及啓発や相談活動を継続し、住民に正しい知識を広めてきたことによって、現在は精神障害者とともに地域住民も多く集うようになっている。平成18年度からは相談支援事業所兼地域活動支援センターとなり、主に精神障害者を対象にした「憩いの場」「生活相談」「地域交流活動」等を提供している。このように当該センターは春日部市を中心に地域精神保健福祉活動に尽力。さらには、埼玉県内を対象とした各種事業等にも積極的に参画し、県内の精神保健福祉の向上に多大な貢献をしている。
YSK (八潮市精神しょうがい者家族会)	高波 幸雄	八潮市	草加保健所	平成18年、八潮市主催家族会に参加していた有志家族により開設。定例会や会報の発行等により、参加家族等に学びの機会を提供し続けた。平成29年から「何でも相談」を開始。毎月1回家族・住民・当事者からの精神保健福祉に関する相談に応じ、市や関係機関との連携をしながら個別の相談に応じている。他関連団体とも連携し、様々な立場の家族間交流を図っている。家族が抱える問題や市の障がい者施策に関する課題の共有を図りながら、市の福祉増進に貢献している。以上の点から、当団体は八潮市の精神障がい者やその家族の福祉増進のみならず、他障がい団体との交流等を通じて市の障がい者福祉の進展にも大きく貢献しており、推薦に至った。
特定非営利活動法人 おけがわ福祉会	大島 純子	桶川市	鴻巣保健所	昭和50年、家族会「あけぼの会」(H12協会長表彰受賞)を発足。その後、当事者の会「芽生えの会」、「桶川地区精神障害者共同作業所芽生えの会」を開所。平成9年には、他の障害者団体や家族会と協力し、自主製品の販売である福祉の店「まねきねこ」をオープンした。平成18年に特定非営利活動法人として登記した。現在も、地域活動支援センターの運営、家族会の活動、後援やイベントを開催している。長年、地域生活の支援や家族同士の交流、当事者と住民とが交流する場を提供し地域に根付かせてきた。精神障害者の自己実現と地域の精神障害者への理解を深め、多大な社会貢献を果たしている。
特定非営利活動法人 北本福祉の会 かがやきの郷	甲斐田 よし子	北本市	鴻巣保健所	平成7年精神保健ボランティアグループを結成。当事者家族と共に交流サロンを立ち上げ、地域活動支援センターを設立。平成17年、ボランティアグループ(グループわかば)を設立。平成18年、特定非営利活動法人として登記し、活動を継続している。現在は、当事者とその家族の憩いの場である「かがやきの郷交流サロン」、地域活動支援センターかばざくらの運営、鴻巣北本地域自立支援協議会への参与等活動内容は多岐にわたっている。長年、精神障害者当事者の地域生活の支援や家族の相談、当事者と地域住民が交流する場を提供し地域に根付かせるとともに、精神障害者の自己実現と地域の精神障害者への理解を深めてきた。ひきこもりの訪問相談にも対応するなどボランティア活動の幅も広い。ボランティアと共同し精力的に活動すると共に、今後の事業展開にも意欲的に取り組むなど精神障害者の地域生活の質の向上に多大なる貢献をしている。
寄居・深谷地区 精神保健福祉 玉淀家族会	田尻 守	寄居町	熊谷保健所	昭和48年、当時の花園町・川本町及び寄居町在住の精神障害者家族会として旧寄居保健所を拠点として発足。平成26年、寄居町社会福祉協議会のボランティアの会に所属。平成28年、就労以降支援事業所「桑の実クラブ」に事務局を置き、連携している。現在は、「家族が元気を取り戻し、親亡きあとも地域でその人らしく暮らしていける当事者の居場所づくり」を目指し、定例会やスポーツ、研修会などを開催している。44年にわたり、寄居・深谷地区で「ほっとできる会」として当事者家族を支援しながら、語り合い、学びあい、支えあいを大切に活動している。よって、地域の精神保健福祉の向上に献身的な努力をしており、その活動に顕著な功績があったと認められる。

特定非営利活動 法人 桑の実	岡本 陽子	寄居町	熊谷 保健所	平成9年精神障害者小規模作業所「桑の実クラブ」を開所。現在は、就労移行支援事業所、就労継続支援B型、地域活動支援センターを運営し、精神障害者の地域生活支援を行っている。20年にわたり、寄居・深谷地区で「ほっとできる場」として就労や仲間づくりを支援しながら、利用者の個性を重視し、一人一人を大切に活動している。よって、地域の精神保健福祉の向上に献身的な努力をしており、その活動に顕著な功績があったと認められる。
社会福祉法人 ふかや精神保健 福祉の会 まゆだま	島上 實	深谷市	熊谷 保健所	平成14年に任意団体としてグループホーム桑ねっこを開所。現在は社会福祉法人に変更し、多機能型事業所「ジョブサポートはぶ」、就労継続支援B型「フレンドリー」、共同生活援助「桑ねっこ」・「こかげ」を運営している。10年以上にわたり、深谷地区で精神障害者を中心に支援を行い、「地域で生活したい」「働きたい」等当事者の望む生活や希望の実現を支援している。よって、地域の精神保健福祉の向上に献身的な努力をしており、その活動に顕著な功績があったと認められる。
社会福祉法人 たんぼぼ福祉会	吉田 美栄子	熊谷市	熊谷 保健所	平成8年、精神障害者小規模作業所を開設。平成14年、社会福祉法人を取得し、その後、就労継続支援B型「熊谷たんぼぼ」、共同生活援助「スカイパレット」、就労継続支援B型「熊谷さくら」を開設。家族会「熊谷地区みのり会」と連携し、精神障害者の地域生活支援を行っている。22年にわたり、地域の精神障害者に対し、地域での就労に向けた活動が行えることを目的に、地域の理解を得ながら施設を少しずつ増やし、一般企業と連携しながら就労に向けた取り組みを継続している。よって、地域の精神保健福祉の向上に献身的な努力をしており、その活動に顕著な功績があったと認められる。
特定非営利活動 法人 精神保健 福祉の会 ひなたぼっこ	亀山 久美子	熊谷市	熊谷 保健所	平成11年、精神障害者のボランティアの立場から小規模作業所『ひなたぼっこ』を開設。以後、地域の精神保健福祉の活動の場を広げ、就労に向けた取り組みとして地域の理解を深めながら、ショッピングセンターとも連携した取り組みを行っている。現在は、就労継続支援B型「ひなたぼっこ」。共同生活援助「ショコラ」を運営。地域の精神保健福祉の向上に献身的な努力をしており、その活動に顕著な功績があったと認められる。

### <精神保健福祉協会活動支援感謝表彰>

さいたま市ソフト ボール協会	浅見 茂	さいたま 市	事務局	平成14年、旧大宮・浦和・与野の三市合併によるソフトボール協会の一元化が成り、設立。平成15年に「埼玉県ソフトボール協会」への加盟が正式承認され、大規模な組織運営となった。その後、10年以上にわたり精神障害者の相互交流や社会参加を目的とした埼玉県精神保健福祉ソフトボール大会に協力。平成29年に同大会が休止となるまで審判員を務め、大会の発展に寄与した。また、大会運営の助言等細やかな支援を継続して行い、その活動は障害者スポーツの普及に顕著な功績があったと認められる。
-------------------	------	-----------	-----	---